



第 44 回（平成 21 年 12 月 9 日）定例会の研究発表要旨

「開拓の村、ボランティア(ガイド)活動をとおして」

前田 濱莖 静子氏

「開拓の村」のガイドをとおして、ボランティア活動についてお話いただきました。

ガイドの実際、ボランティア会員の研修、村の催し物、広報活動など、110枚の写真を使って分かり易く説明していただきました。

.....

- ・平成 21 年度のボランティア会員数は 211 名で、年齢 25～85 歳（平均年齢 68 歳）の方々です。男女構成は、男性 142 名、女性 69 名です。



- ・活動の中心は村内解説ですが、その内容は次のようなものです。

総合案内、ガイドツアー、旧来正旅館、市街地巡回、旧青山家漁家住宅、岩間家農家住宅、旧樋口家農家住宅

その見学の中には、囲炉裏を囲んでボランティアの体験談を聞いたり、自分で操作・体験したり、楽しく見学できるように工夫されています。

（濱莖さんが解説するときは、見学者に出身地をたずね、それとの関りを説明のきっかけにして関心を引きつける工夫をされているそうです。）

- ・曜日ごと、または季節ごとの次のような演習もあります。

《毎日》 昔の巡査、手フット印刷

《曜日ごと》 むしろ編み、俵づくり、ぞうりづくり、漁網の繕い、わらじづくり

《季節ごと》 蚕の飼育、そばづくり、深靴づくり、大注連縄づくり

- ・上記のような活動を行なうための下地として、研修も行なっています。主なものは次のようなものがあります。

開拓の村アカデミー（新人講座、専門講座、リフレッシュ講座、その他）

見学研修（道内、道外、市内）

会員の識者に教わる自主研修

- ・「開拓の村」企画部では広報活動も行なっています。

FM 放送による PR

むらびと
村民会員への年賀状

道庁・大通り地下街などでの移動展

広報ちらしの配布（セブンイレブンにあり）

.....

- ◎ 最後にお問い合わせがありました。

ボランティア会員になってください。ただ「開拓の村」ボランティアの場合は、

村内を歩きますので高齢者（70 歳を越えると）は大変かもしれません。むらびと
村民登録も行ってください。

また、見学もよろしくお願ひします。手稲地区の見学者は少ないようです。遠いせいかもしれません。

[文責：小田]



「手稲鉱山研究報告書作成」の中間報告について

手稲鉱山研究グループ事務局長 鈴木清士氏

第 2 部では手稲郷土史研究会の事業計画の中に「研究グループ活動の推進」が盛り込まれていることから、平成 20 年 7 月に鉱山部会を発足（部員 16 名）、月 1 回の定例開催を基本とし部会長には三国勲会員を選出、手稲鉱山部会（グループ）を先行的に行うことにより手稲郷土史研究会の他の部会発足を促す意味もあり開催されたそうです。

このたびの報告書は木田金治郎の描いた「手稲鉱山」の絵画（大変貴重な絵画）を裏表紙に挿入してあり、第一章「これまでの活動の経過報告」、第二章「なぜ手稲鉱山をテーマにしたのか」、第三章「どのような報告書とするのか」、第四章「報告書の内容」が紹介され、予定時間 60 分を超えるボリュームの有る中間報告を定例会に出席の会員方々は、かたずをのんで聞き入ってしまいました。

鉱山部会では札幌市内の鉱山博物館見学（山の手博物館・弥永北海道博物館）や手稲鉱山跡（広瀬省三郎経営時代の旧選鉱場・三ッ山立坑跡地）の見学を行い、これまでに 15 回の定例会の開催を重ねており、現在 20 名の部員で構成されております。



今回はこれまでの研究成果を報告書としてまとめられ、次回（平成 22 年 1 月）部会定例会に提案される内容が、詳しく取り上げられていました。

手稲鉱山跡は手稲の歴史・文化を語る重要な産業遺産であり、手稲区の発展に欠くことのできない史実でありながらも、1971 年（昭和 46 年）閉山以降、次第にその存在も忘れられかけている昨今、地域活性化のために鉱山遺跡の活用で、まちづくり活性化に資したいとの思いが報告書に込められています。

報告書は A4 版・カラー写真入りで 50 ページになる予定で写真や図式を多く取り入れられ、一般市民の目線（学術的なものでない）に立って編集されており、報告書作成に取り組みされた方々の熱意が伝わってきます。とても貴重な報告書となることでしょう。 [文責：佐々木]

= ◆ = ◇ = ◆ = ◇ = ◆ = ◇ = ◆ = ◇ =

COLUMN

キクイモ

= あけましておめでとうございます =

昨年は気候が不順でしたが、みなさんの畑はお元気でしたか？

わが家の極小菜園は惨憺たるものでした。ところで、畑中に繁茂するイモ付き雑草に毎年悩まされてきましたが、一昨年それが「キクイモ」ではないかという人がいて、調べると、ネット通販でイモ 2 キロ 1,200 円。ジュース 500 ミリリットルが 4,200 円とあり、思わず生唾が。しかも、天然インシュリンといわれ、イヌリンという成分は血糖値を下げるので糖尿病やダイエットにも良いとある。早速、やせたい友人を呼び集め、イモ堀をさせ、まずはジュースに。ダイエットを誓い合い、おしゃれなグラスで試飲。が「吐！」めげずに火を通して試飲。またもや「吐！」。詳しく検索すると、戦時中は代用食に、戦後はブタに与えたことからブタイモとも言われ云々とある。しかし、写真を見ると、わが家のそれと形状が異なり、どうもキクイモではなく「イヌキクイモ」の疑いが……。そして「食用には不向き」とも。全員のけぞってしまった。

それにしても、これまで一度も黄色い花をつけたことはなく、イヌキクイモでもなさそうなのですが。 [文：高木]

次回の予定

次回（2 月 10 日）は、手稲神社宮司山口雄之氏の講演「手稲神社のあゆみと年中行事 など」、と釣本峰雄会員の発表「明治 18 年山口県移民樽川村へ移住～入植 5 代目～」を予定しております。